

異文化コミュニケーションカンファレンス

病院の音楽をつくる

—いのちのそばに—

小松正史先生講演

1月18日
みみはらホール



総合病院で流れている音楽。本邦初の「医療空間専用の環境音楽」です。昨年12月24日は音楽CDとして一般発売されました(当院売店でも取扱中)。職員アンケート、音計測などの調査の監修をされ、「みみはらのために」書きおろしてくださった、小松正史先生の演奏とお話を伺いました。

病院の環境音楽製作は初めてです。不安でしたが、玄関に入ったとたん豊かな色彩とスタッフの人の柄にも触れて、「うけぞったな」と思いました。「塩穴」「耳原」という土地の名前や歴史、場所の空気感、スタッフとのやりとりすべてに想いを注ぎ、音をくみだしていきます。

「いまいろんな場所で「音楽」がかかっていますね、みなさんも好まない、(無理に)聴かせない音づくりをめざしました。

鼓膜は皮膚が分化した器官です。心地よい音は、肌をそっと撫でられるような感じがするの理由があります。「音」は心理へ直接はたらきかけることを考えると、音環境デザイン=心のデザイン、頭脳内(妄想)デザインといえるかもしれません。今日は、嫁ぎ先の娘によくやく会えた気分です。

小松 正史氏
環境音楽家・音環境デザイナー・音教育家・京都精華大学人文学部教授・博士(工学)
大阪大学大学院(工学研究科・環境工学専攻)修了。
音楽だけではなく「音」に注目し、それを教育・学問・デザインに活かす。
【専門分野】聴覚生態学・音響心理学
【音環境デザイン】京都タワー展望台/京都国際マンガミュージアム/ポーラ美術館/京都丹後鉄道他
*小松正史公式Webサイトより引用
<http://www.nekomatsu.net/>

小松正史新作CD
『いのちのそばに～医療空間のための環境音楽～』
2枚組CD、全22曲入り、3,240円(税込)
*アマゾンでも購入可能



【参加者の感想】

・生演奏との「ライブ」は泣きそうになりました。普段聴いている音なのに、改めて聴いて懐かしい気持ちになりました。

・業務中は正直「うーん」といってこない。けれど、患者さんに大切なお話をするときなど、重要な場面で聞えてくると、少しほっとします。

・日常のていねいな観察、そこから感じたことが感性を通じて形になる、生まれる。感動がお話にあふれていました。

理事会報告

12月度理事会(概要)

12月16日(土)午後2時から理事17名、監事1名の出席で2017年度・第4回理事会が社会医療法人同仁会本部3階会議室で開催されました。

開会挨拶のあと、専務より会務報告、理事会運営、諸手当規程について提案があり、出席理

事全員の賛成にて承認されました。

〈主な内容〉

- ①前回理事会議事録確認
- ②協議・確認事項
 - ・各種委員会へ理事の運営参加の提案
 - ・耳原総合病院の新組織運営に対応した諸手当規程改定の提案

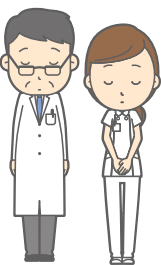
眼科外来“休止”

新患受入れ終了のお知らせ

大変急ではございますが、2018年4月末をもちまして眼科外来を休止することになりました。

そのため、新患の受け付けは1月末にて終了しており、また、眼科外来を継続受診中の患者さんには、5月以降の受診先のご紹介・調整をさせていただきます。

皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。



社会医療法人同仁会
耳原総合病院 病院長

60年のあゆみ

耳原実費診療所創立60周年記念誌

いのち輝け未来へ

その2

第一章 地域の人々とともに 実費診療所創設 そして病院建設へ

1949年～1958年

困難を乗り越えて 病院化へ

(前号のつづき)

地域からは「なんとか入院できる施設を」「何としても病院に」の切実な声が起こり、病院化にむけた職員と地域の真剣な努力のなかで2年後の1953年11月、入院設備を備えた耳原病院(現・耳原総合病院)が開院した。

また、開設に当たっては、病院建設に必要な資金が僅かしかありませんでした。開設に向け必死で取り組みなかで、地域の方の紹介で米軍兵舎の払い下げを確保しました。



耳原病院の中央廊下

米軍払い下げの病院はグリーン丸屋根に白い壁という、かまぼこ型の丸い建物で、日本の



1953年頃の地図



老朽化した住宅が密集する当時の耳原町。願専寺の屋根が見える



耳鼻咽喉科